

第 17 回

開催日時	平成27年3月25日(水) 18:30~19:00		
開催場所	茨城町消防庁舎 多目的会議室		
出席者	委員	中村忍, 北山静香, 和家貴之, 小橋康德, 小松崎育, 田家英雄, 田中真琴, 中村敬治, 川越信行, 池田晃一, 吉川博久, 山本香織, 中根絵美, 佐久間知美, 吹野久美子, 小林一裕, 會沢勇夫, 井野由美子 (敬称略, 順不同)	
	傍聴者	0名	
	その他	小林町長, 鈴木教育長, 村田教育次長	
	事務局	学校教育課再編担当	
会議次第	<p style="text-align: center;">【茨城町立小学校統合準備委員会協議結果報告書】</p> <p>・教育長へ報告</p>		

第17回 茨城町立小学校統合準備委員会 会議要旨

1 開会

2 委員長あいさつ

約2年間の長丁場の協議であったが、皆様大変お疲れ様でした。

3 町長あいさつ

4校の統合に向けた約2年間にわたる協議、大変ありがとうございました。先般、閉校する4つの小学校に関する新聞記事を読み、長い歴史を持つ小学校を閉校することについて大変複雑な思いを抱いた。地域においては、子ども達の育成にとって大切な場がなくなるわけであり、そこに住む方や卒業生達はどのような思いでこの閉校について考えたのだろう、そして、閉校式の場に臨んだのだろうと考えると大変辛い気持ちであった。皆様には、統合準備委員をお願いしておきながら、本当にこれで良かったのかと自問自答しながら閉校式の挨拶を考えていた。

国においては、少子化について真剣に取り組もうとしている状況であるが、茨城県の北部におい

ては、何年も前から人口減少に悩み、問題意識をもって様々な施策を試みているところで、当町においてもそうした状況に直面し、本当に大変な問題だと痛感しているところである。

現在、地方創生ということが言われているが、最も効果的な施策は人口を増加させることであり、それができれば地域を活性化させることはできると考えている。しかし、現状を放置すれば、人口は減少し、地域から学校がなくなり、集落がなくなり、そして町が消滅するものだと考えている。自治体の消滅は、国の衰退にもつながる危機的な問題である。日本の人口は、数年前の1億2千万人をピークに減少の一途をたどり、若年者が減り、高齢者が増えるというバランスを欠いた構造になりつつあり、当町においてもそのような現実と直面したことによって、学校再編という重い課題と向き合わざるを得ない状況につながった。

今回の統合により、小学校は9校から6校に減少することになった。涸沼川より南にある4つの小学校を1校に統合するという大合併であることから、様々な立場の方をお招きし、様々な観点から慎重に協議を重ねていただいたが、最良の結論を導き出していただいたと確信している。皆様の長期にわたるご尽力にお礼を申し上げますとともに、無報酬のボランティアでこのような重要な協議を重ねていただいたことに心から感謝を申し上げます。

今後は、新たな小学校で学ぶ子供達に対し、教育の充実を図っていくことが我々に課された使命であり、この結果を受けて、健全な子供達が育つよう行政が一体となって、皆様方とともに青葉小学校を築き上げていければと考えている。會沢委員長を中心として、委員の皆様には大変なご苦勞をおかけしたが、無事に青葉小学校の開校を迎えることができたことに改めて感謝を申し上げ、あいさつとさせていただきます。

4 教育長へ報告

委員長

【茨城町立小学校統合準備委員会協議結果の報告について（最終報告）】

茨城町立小学校統合準備委員会設置要綱第2条の所掌事項について、慎重に協議を重ね、全ての協議が終了しましたので、ここに報告をいたします。

1. 茨城町立小学校統合準備委員会の経過

平成25年6月4日に第1回目の委員会を開催し、以降、平成27年2月26日まで16回の委員会を開催し、協議をしてまいりました。

2. 茨城町立小学校統合準備委員会委員名簿

委員会は、PTA代表、就学前児童保護者代表、学区内地域住民代表及び学校代表の20名で構成され、委員は、委嘱の日から協議事項が終了する本日までの任期を務めてまいりました。

3. 茨城町立小学校統合準備委員会 協議結果

茨城町立小学校統合準備委員会設置要綱第2条の所掌事項である統合校の名称、校歌、校章をはじめ、統合に関わる必要な事項について協議を重ね、別紙報告書のとおり決定いたしました。

なお、教育委員会におかれましては、統合後も引き続き、子供達の教育環境の向上に努めていただきますようお願いいたします。

以上、報告いたします。

平成27年3月25日

茨城町教育委員会 教育長 鈴木 由美 様

茨城町立小学校統合準備委員会 委員長 會沢 勇夫

5 教育長あいさつ

本日の会議を含め、統合準備委員会の開催回数は17回目を数えた。青葉中学校の統合準備委員会の時も、当時の委員の皆様には大変な作業をお願いしたと感じていたが、今回の統合準備委員会では、統合する小学校が4校であったことから困難を極め、皆様には大変なご苦勞をおかけしたと感じている。皆様のおかげで全ての準備が整い、無事に開校式を迎えられることになった。

学校の統合においては、プラスの面もあればマイナスの面もあるのが事実だと思う。今年度が開校した青葉中学校では、中学生という多感な年頃の子供達であったことから、気持ちの面での折り合いがつかず、色々と苦勞した面も多かったのではないかと思う。しかし、子供達の姿を見ると、しっかりと成長し、様々な困難を乗り越え、統合中学校の生徒らしく多様な価値観を学びとりながら頑張っているなど感じているところである。多くの子供達の中で、互いの良い部分を学び合うことで、そのような結果につながったのではないかと感じている。統合するとなった以上は、少しでも子供達が成長できるよう、全力を尽くすしかないのだと改めて感じている。

これまでは、規模の小さな小学校では1学年が十数名、規模の大きな小学校でも三十数名程度であり、全体的に考えると1学年が三十名を超える学校はほとんどないという状況であった。縦割り班など、様々な取り組みは実施するものの、そのような学校規模で6年間を過ごす状況において、これまで以上の人間関係が築き上げるかと言えば、なかなか難しいのではないかと感じている。

学校が統合することによって得られるメリットは、多くの子供達がいる中で過ごすことで視野が広がり、互いに切磋琢磨する機会が増え、何より豊かな人間関係を築き上げることができることだと考えている。

また、青葉小学校では、教職員の人数がこれまでの学校に比べてかなり増加する。川根小学校以外の3校については、校長、教頭などを含めても、常勤の教職員は13～14人程度であったが、青葉小学校は、常勤の教職員だけで30人近く、非常勤の教職員も含めると40人近くになる。子供達にとっては、多くの教職員の多様な人間性に触れる中で、様々な角度から多くのことを学べる機会が増え、視野もより広がるのではないかと考えている。

反対にデメリットは、学校の規模が大きくなることによって、担任の教師が1人1人の子供達に接する時間が減るなどして、これまでに比べると、子供達に少し寂しい思いさせることがあるのかもしれないということ、そして、学習面においても、きめ細やかな対応ができなくなる可能性があるのかもしれないということだと考えている。

しかし、子供達は、様々な人達との交流を持ちながら、やがて大きな社会に飛び出して行くわけである。そのように考えれば、学校は、社会性を培う場でもあるため、できれば、小学校のうちから少しでも視野を広げ、そして人間関係を広げ、子供達の健全な成長を促すためには、そうした面もある意味では必要なことではないかと感じている。

これまで、教職員に頼っていた子供達が、もう教職員に頼ってばかりはいられないという状況に

なれば、自ら、そして、仲間と協力して何とかしようという思いが芽生え、よりたくましく成長するきっかけになるのではないかと感じている。良い方にばかり捉えているようにも受け取られかねないが、個人的には、経験上そのように考えている。

保護者の皆様も、最初のうちは色々な違和感を感じる場面があるのかと思う。しかし、PTA組織が大きくなることにより、これまで以上に活動の幅は広がるのではないかと考えている。

良いことづくめではなく、問題も色々あるかとは思いますが、教職員、PTA、そして、地域の皆様が力を合わせながら、困難を乗り越えていただければ考えている。教育委員会としては、環境整備をはじめとして、できる限りのことをしていきたいと考えている。子供達のために、少しでも良い学校を築き上げられるよう頑張っていきたいと考えているので、今後ともよろしく願いいたします。皆様のおかげで、無事に新しい小学校の開校を迎えることができました。本当にありがとうございました。